

環境省のエコハウスモデル事業に

小水力発電のまちの「エコハウス」普及構想が採用！

地球温暖化の原因と言われる二酸化炭素の排出量は、年々増加傾向にあります。その中でも、家庭からの排出量は1990年度比で4割以上増加しています。

このような中、環境省では、建設、居住、改修、建替えのライフサイクルにわたって環境負荷が少なく、かつ快適な暮らしを実現する環境共生型住宅(エコハウス)のモデルハウス(21世紀環境共生型モデル住宅)を全国20カ所で整備し、これを活用した住宅環境対策に関する普及活動を展開することとなり、事業に取り組む自治体の公募が3月にありました。

本市では、水資源や森林資源などの地域特性を生かしたエコハウスの普及を目指して「小水力発電のまちのエコハウス普及構想」を提案し、このたび全国20カ所の1つに選定されました。

今後、全国的に注目を集めている小水力発電のまちにふさわしいエコハウスのコンセプトづくりを市民との協働により実施し、エコハウスとともに、エコライフの普及啓発に繋げるための拠点づくりに取り組みます。

小水力発電のまちの「エコハウス」普及構想のポイント

1 小水力発電施設と一体化した「エコハウス」

小水力発電のまちの顔となるよう「元気くん1号」をはじめ、今後設置を予定している2・3号と連結でき、さらに太陽光(発電)・太陽熱・木質バイオマスなど自然エネルギーを効率的・効果的に活用し、経済性にも十分考慮した自然エネルギー自給率の高い「エコハウス」を目指します。

2 水の循環サイクルと一体化した「エコハウス」

雨水の高度利用や地下水保全のための地下浸透などを積極的に導入し、水の循環サイクルと一体化した「エコハウス」を目指します。

3 森林再生に直結する「エコハウス」

市内事業者で開発された、間伐材や松くい虫の被害木から作った炭を原材料にした「複合型活性炭ボード」を取り入れるなど、地域の森林資源を積極的に活用した「エコハウス」を目指します。

4 地域素材を活用した「エコハウス」

地域素材を活用した「エコハウス」を目指します。

5 長寿命化を可能とする「エコハウス」

長寿命化を可能とするため、結露の予防などの湿気対策や家のライフサイクルに合わせた間取り変更のしやすい構造、さらに、ライフサイクルコストを考え、補修しやすい材料や工法を取り入れた「エコハウス」を目指します。

6 リユース、リサイクル、廃棄処理しやすい「エコハウス」

解体時における産業廃棄物の排出を極力抑えられるよう、リユース、リサイクル、廃棄処理しやすい建材使用や工法を取り入れた「エコハウス」を目指します。

7 「エコな暮らし」をトータルで支える「エコハウス」

建物だけでなく、地場の素材を活用し、家具、寝具、室内装飾、さらに、食などについても地元の関連事業者や団体などと連携し、快適性とエコな暮らしを支える「エコハウス」を目指します。